

『ボローニャ・プロセス』

ボローニャ・プロセス

- 1999年イタリアのボローニャにおいて『ボローニャ宣言』を採択
- 2010年までに『欧州高等教育圏』[European Higher Education Area][=EHEA]設立
- 46ヨーロッパ圏国家及び多数の国際機関が参加
- 目的:流動性促進による欧州の高等教育の競争力強化

具体的政策

- 他国と比較しやすい、わかりやすい学位制度
- 大学を学部(学士)と大学院(修士・博士)に分ける2サイクル制
- ヨーロッパの教育機関間の単位互換制度
- 学生、教員の自由な移動の促進
- 教育の質の保証
- 高等教育におけるヨーロッパ的視野の促進

ボローニャ・プロセスと 学生の大学運営参加

ボローニャプロセスの注目すべき点:『大学の
運営に学生が参加することが奨励されてい
る』

2001年プラハ会合公式声明 —ボローニャプロセスにおける学生の立場—

- 「高等教育の**全面的当事者**」
- 「有能かつ積極的で建設的な**パートナー**としての学生」
- 「学生は大学の教育内容と構成に関して、**参加し影響を与えるべき**」
- 「**ESIB**(欧州学生団体連合:欧州の学生組合の包括的組織)がプロセスのフォローアップ・グループの一員に」

学生の参加状況

2002年欧州評議会調査 Persson A. (2003) STUDENT PARTICIPATION IN THE GOVERNANCE OF HIGHER EDUCATION IN EUROPE, CD-ESR-GT1(2003) 3 final, Council of Europe

- 半数強の回答→法律・憲法が国レベルの学生参加を保証。
- ほぼすべての回答→大学の全学、学部、学科のいずれかで、法令が学生参加を保証。
- 多くの国で、全学評議会での学生の議席数が決まっている。
- 学生委員の多くはすべての議案において投票権を持つ。

学生参加の現状 Persson A. (2003) STUDENT PARTICIPATION IN THE GOVERNANCE OF HIGHER EDUCATION IN EUROPE, CD-ESR-GT1(2003)3final, Council of Europe

- 学生委員選挙での投票率: 16%~30%
- 法令の規定と現実がかけ離れていることが多い
- 学生が高等教育の当事者として扱われていないケースが多い
- 学生が大学運営参加に無関心

学生参加が低調な理由 大場淳(2005)「欧州における学生の大学運営参加」

- 1、学費を払うだけの消費者。高等教育機関の中心的存在の一部であるという意識が薄い。
- 2、学業・課外活動・アルバイトなどが忙しい。
- 3、大学運営に参加するための知識が不足。
- 4、大学運営組織での審議内容が学生の生活に直接影響のないことが多く、学生が興味を抱きにくい

ネピア大学の取り組み: 代表者

Gibbs A. & Ashton C. 『Student involvement in university life and quality processes, Results of thematic audit on student involvement in university governance and decision-making』

- ネピア学生組合: 学生の利益を代表する**学生団体**。
- 団体の代表者: 学生から選出。**有給**。
- 学生団体のほか、**学部代表**と**学科代表**が学生から選出。
- 学科代表: 代表の業務遂行のための**研修コース**に参加。
- **学科代表のための授業**も開講(単位取得可)。

授業評価における学生の役割

Gibbs A. & Ashton C. 『Student involvement in university life and quality processes, Results of thematic audit on student involvement in university governance and decision-making』

- 大学評価の際、**学生の意見・要望を考慮**に入れることが義務。
- 教育内容調査会に学生の代表者が参加。授業や**教育内容**について**意見・要望**を述べられる。
- 授業評価**アンケート**を**学期の中間**に実施。
- さまざまな方法で意見収集。
例: 授業でのディスカッション、グループミーティング、Eメール、紙面アンケートなど。

まとめ

- 日本の大学は法制度の整備において、欧州の例に倣うことができる。(まず、議論の活発化から)
- しかし、制度だけが整っても、本当の意味で学生の声を受け入れる意識が大学関係者になん限り、また学生の参加を促す仕組みがない限り、学生の充実した参加は望めない。
- 問題を克服する上で、ネピア大学の事例から、きめ細かく具体的な方策を実施することの重要性を学ぶことができる。

オフィアスインターンとして リサーチに参加して

- 日本の大学が教育に関する取り組みで欧州に比べ、かなり多くの面で、遅れていることを実感。
- 例： 近隣諸国との協力関係の弱さ。教育の質保証に向けての取り組み。留学生に対するアピール。そして、学生の大学運営参加。
- すべての面で、欧米と同じ行動をとる必要はないが、現実的に世界の流れの変化に対応し切れていないことは大きな問題。今後も、**欧州を始めとした世界の潮流に常に敏感**であることが、自分にできる行動。

参考文献

- Persson A. (2003) STUDENT PARTICIPATION IN THE GOVERNANCE OF HIGHER EDUCATION IN EUROPE, CD-ESR-GT1(2003)3final, Council of Europe, http://www.see-educoop.net/education_in/pdf/student-part-in-governance-oth-enl-t02.pdf#search='student%20participation%20higher%20education
- 大場淳(2005)「欧州における学生の大学運営参加」大学行政管理学会誌第9号(2005年度)(平成18年8月1日)、10、<http://home.hiroshima-u.ac.jp/oba/docs/juam9studentparticipation.pdf>
- Gibbs A. & Ashton C. (2007) Student involvement in university life and quality processes, Results of thematic audit on student involvement in university governance and decision-making, EUA Case Studies 2007, Embedding Quality Culture in Higher Education, 47-52, http://www.aqucatalunya.cat/uploads/publicacions/aqunoticies/agost2007/EUA_QA_Forum_Students.pdf#search=4.%20STUDENT%20INVOLVEMENT%20IN%20QUALITY%20PROCESSES